すずき 恵　twitter@suzume_art

鳥や動物をモチーフにしたアクリル画や木工作品などを作っています。

▼個展・主なグループ展

2001 年「通りの片隅で」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2002 年「Circle of Life」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2004 年「なにかの種」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2005 年「花鳥風月」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2005 年「唯の日々 ―TADANOHIBI―」（re:bridge edit ／仙台）

2007 年「徒然色景」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2009 年「箱ノ森」青月碧美 × すずき恵 2 人展（re:bridge edit ／仙台）

2010 年「枠の外」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2017 年「表裏一体」（GALLERY ECHIGO ／仙台）

2013 年～2017 年　せんだい 21 アンデパンダン展　参加

〈本〉が好きです。本を読むことはもちろん好きですが、装丁された〈本〉という形が好きです。
デザインやアイデアに唸らされる本、挿絵が素晴らしい本など、素敵な装丁の本に出会った時、
ジャケ買いならぬ装丁買いをしたくなるのは、本好きあるあるですよね？
そんな本好きの絵描きなら、本の挿絵を描きたいと思うのは、自明の理でしょう。

実は私も過去に、自作の絵本などを作って、絵本展に出したこともあったんですが、
その際、なにか〈面白い本〉―――と考えた時、ふと、本の世界を自分の外側まで広げて
自分が本の中に入っていくような感じの展示ができたら面白いなぁと思いました。
その時は、まぁ、思いついただけで、いつか機会があったら、そういう
〈物語を体感できるような展示〉がやれたらいいなと、
心の隅っこで密かにあたためていたのです。

だから今回、かくらさんに四十雀の挿絵と展示のお話をいただいた時、あのアイデアを出すなら今でしょ、
と、渡りに船とばかりに〈壁を本のページに見立てて歩いて読んでいく感じ〉というイメージを話して
みたら、そのアイデアが倍くらいになって返ってきたのだから、驚きです。
まさか文字を１文字１文字切り抜くなんてそんなめんどうなこと、私だったら考えもしないです（笑）。
そこは、おはなしをつくる方ですから、〈言葉〉に対する思い入れというか、パワーの込め方が違うんで
しょうね。

冬の、ちいさな四十雀の影のおはなし、そのちょっと不可思議な世界の
四十雀のほのかにあたたかい温度が、ちゃんとみなさんに伝わるような、
そんな絵が描けていればいいなと思います。（すずき　恵）